

CASBEE[®] さいたま2016年版 | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE さいたま2016年版 使用評価ソフト: CASBEE さいたま2016ver.2.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	第一倉庫冷蔵株式会社 岩槻長宮	階数	地上6F
建設地	さいたま市岩槻区大字長宮字小沼1474-1、字西側1441-1	構造	RC造 一部S造
用途地域	市街化調整地域、防火指定なし	平均居住人員	100 人
地域区分	5地域	年間使用時間	5,475 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2022年3月 予定	評価の実施日	2020年4月10日
敷地面積	39,004 m ²	作成者	加藤健一
建築面積	8,135 m ²	確認日	2020年4月13日
延床面積	41,913 m ²	確認者	須田崇



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

環境品質 (縦軸) vs 環境負荷 L (横軸)

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値 ② 建築物の取組み ③ 上記+②以外の ④ 上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 4
Q3 室外環境 (敷地内): 3
LR1 エネルギー: 2
LR2 資源・マテリアル: 3
LR3 敷地外環境: 3

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境: Q1のスコア= 3.0

Q2 サービス性能: Q2のスコア= 3.4

Q3 室外環境 (敷地内): Q3のスコア= 3.0

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.0

LR1 エネルギー: LR1のスコア= 2.9

LR2 資源・マテリアル: LR2のスコア= 3.3

LR3 敷地外環境: LR3のスコア= 2.8

3 設計上の配慮事項		
総合	工場という用途ではあるが、周辺環境との調和を目指し、地球環境負荷低減への配慮をできる範囲で行った。	その他 特になし
Q1 室内環境	内装材等は☆☆☆☆を使用した。	Q3 室外環境 (敷地内) 敷地周辺に緑地を設け、敷地内環境への配慮を行った。
LR1 エネルギー	LED照明を採用し、省エネルギーへの配慮を行った。	LR3 敷地外環境 建物配置を東西方向を短くし、日照等の敷地外への配慮を行った。
Q2 サービス性能	自動販売機置場、男女別休憩所、食堂を設け、サービス性能への配慮を行った。	
LR2 資源・マテリアル	省水型機器を採用し、水資源への配慮を行った。	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEEさいたま2016年版
 第一倉庫冷蔵株式会社 岩槻長官第二物流センター

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版
 ■評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

スコアシート		基本設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									3.1
Q1 室内環境					0.30		-		3.0
1 音環境				3.0	0.15	-	-		3.0
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	3.0	-		
1.2 遮音				3.0	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能				3.0	0.60	3.0	-		
2 界壁遮音性能				3.0	0.40	3.0	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	-		
1.3 吸音				3.0	0.20	3.0	-		
2 温熱環境				3.0	0.35	-	-		3.0
2.1 室温制御				3.0	0.50	-	-		
1 室温				3.0	0.38	3.0	-		
2 外皮性能				3.0	0.25	3.0	-		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	-		
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	-		
3 光・視環境				3.0	0.25	-	-		3.0
3.1 昼光利用				3.0	0.30	-	-		
1 昼光率				3.0	0.60	3.0	-		
2 方位別開口					-	3.0	-		
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	-		
3.2 グレア対策				3.0	0.30	-	-		
1 昼光制御				3.0	1.00	3.0	-		
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	-		
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	-		
4 空気質環境				3.0	0.25	-	-		3.0
4.1 発生源対策				3.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質				3.0	1.00	3.0	-		
4.2 換気				3.0	0.30	-	-		
1 換気量				3.0	0.33	3.0	-		
2 自然換気性能				3.0	0.33	3.0	-		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33	3.0	-		
4.3 運用管理				3.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御				3.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-		3.4
1 機能性				3.6	0.40	-	-		3.6
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	-	-		
1 広さ・収納性				3.0	0.33	3.0	-		
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.33	3.0	-		
3 バリアフリー計画				3.0	0.33	-	-		
1.2 心理性・快適性				4.0	0.30	-	-		
1 広さ感・景観		事務室の天井高さ2.7m以上で外部に面した窓が設置されている。		4.0	0.33	5.0	-		
2 リフレッシュスペース		6階全体が休憩スペースで自販機設置。(執務スペースの1%以上)		5.0	0.33	-	-		
3 内装計画				3.0	0.33	-	-		
1.3 維持管理				4.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		取組数9個		5.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				3.2	0.30	-	-		3.2
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.4	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能		免震構造を採用している		5.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				3.0	0.20	-	-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-		
3 電気設備				3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備				3.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			3.3	0.30	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり			4.2	0.30	-	-	
1 階高のゆとり			5.0	0.60	3.0	-	
2 空間の形状・自由さ			3.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.40	-	-	3.0
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.0
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	2.9
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI _m = 0.84	4.6	0.20	-	4.6
2 自然エネルギー利用				3.0	0.10	-	3.0
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEI _m] = 0.95	2.2	0.50	-	2.2
4 効率的運用				3.0	0.20	-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00	-	-
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-
4.2 運用管理体制				3.0	0.50	-	-
集合住宅の評価				-	-	-	-
4.1 モニタリング				3.0	-	-	-
4.2 運用管理体制				3.0	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護				3.4	0.20	-	3.4
1.1 節水			節水コマ、節水型便器の設置	4.0	0.40	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.70	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30	-	-
2 非再生性資源の使用量削減				3.5	0.60	-	3.5
2.1 材料使用量の削減			取組みポイント=3(プレキャストコンクリート、高強度コンクリート使用)	4.0	0.10	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.20	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			ビニル系床材:通路床等OAフロア床材:事務室床、高速シートシャッター:コンベアー開口部	5.0	0.20	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.10	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				3.0	0.20	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.20	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.70	-	-
1 消火剤				-	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50	-	-
3 冷媒				3.0	0.50	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	2.8
1 地球温暖化への配慮				3.0	0.33	-	3.0
2 地域環境への配慮				2.6	0.33	-	2.6
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.5	0.25	-	-
1 雨水排水負荷低減				3.0	0.25	-	-
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-
3 交通負荷抑制			広いトラックヤードと別敷地に大型駐車場を確保	5.0	0.25	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-
1 騒音				3.0	0.33	-	-
2 振動				3.0	0.33	-	-
3 悪臭				3.0	0.33	-	-
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40	-	-
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-
2 砂塵の抑制				3.0	-	-	-
3 日照阻害の抑制				3.0	0.30	-	-
3.3 光害の抑制				3.0	0.20	-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70	-	-
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-